

■ ドン・キホーテをテーマに！市内で演奏会 (2017/06/01)

ツイート

小樽商科大学4年の東大路京子氏らが企画制作した、「ドン・キホーテ」をテーマにした演奏会を、6月24日(土)と7月2日(日)の18:30から、日本基督教団小樽聖十字教会(新富町)で、7月1日(土)17:30から同大学(緑3)160教室で予定している。



京子氏がスペイン留学で所属した、ブルゴス交響楽団のコンサートマスターを務めるスペイン人バイオリニストで、この公演の提案者でもあるパブロ・ビアナ・ゴメス氏と、京子氏の兄で作曲家・ギタリスト・バイオリニストの東大路憲太氏の3名が共演する。オリジナルの脚本と音楽によるドン・キホーテをメインプログラムに、5つのプログラムを用意。約2時間ほどの演奏会を開く。

小説で読むと膨大な量の大作を絵本程度にまとめ、脚本に寄せられた音楽が物語の理解を助け、子どもも大人も臨場感豊かに、ドン・キホーテの世界を楽しめるという。

最後のプログラムに、憲太氏が作曲を担当した音楽物語「ドン・キホーテ」を奏でる。オリジナル脚本を京子氏が書き下ろし、朗読と演奏で来場者をドン・キホーテの世界へ誘(いざな)う。

ドン・キホーテは、スペインの作家ミゲル・デ・セルバンテスが書いた、スペインの下級貴族ドン・キホーテを主人公に、狂人と呼ばれながらも自分の生き方を貫き、純粋な命を魅力的に綴った小説で、全世界で聖書に次ぐ発行部数を記録した名作。今もなお親しまれている。今年、セルバンテス生誕470年に当たる。

憲太氏は、「長編の小説ドン・キホーテを、音楽と朗読で分かりやすく臨場感を伝え、皆さんに楽しんでもらえると思う。本場スペイン人のバイオリンの演奏で聴かせる、スペイン音楽が大きな見所となり、日本人の作曲家とスペイン人のバイオリニストの若い2人が作り上げる、新しいスペイン音楽の世界を楽しんでいただきたい」と話し、京子氏は、「最近の同年代は、エネルギーに人生を切り開くような存在感が薄れ、信念を貫くドン・キホーテの生き方を皆さんに観ていただきたい」とPRした。

東京では、7月7日(金)16:00と19:00の2回公演を予定している。

ドン・キホーテ ～スペイン人バイオリニストが奏でる音楽物語～
パブロ・ビアナ・ゴメス(Vn.)、東大路憲太(Gt.)、東大路京子(朗読 & Vn.)

6月24日(土)・7月2日(日)18:30～、日本基督教団小樽聖十字教会(新富町9)
7月1日(土)17:30～、小樽商科大学(緑3)160教室

一般2,000円・学生1,000円・小学生無料
問合せ:0134-27-5471 & [メール](mailto:info@donquixote.jp) 東大路

